

令和3年度 第4回摂津市立千里丘小学校学校協議会 要点録

令和3年12月23日(木)18:30~20:30

於:千里丘小学校 東棟1階会議室

記録:紅林 陽子(事務局:本校教頭)

出席委員:中田 康之、以登田 毅、佐野 英和、寺田 洋子、青木 みゆき、木下 さひ子、藤浦 清美、前馬 晋策、
橋爪 恵子

欠席委員:武友 加代子 (敬称略)

学校出席者:校長 撰田 裕美、教頭 紅林 陽子

1. 校長より挨拶

年末が押し迫ってきた。明日に終業式を控え、教職員は年を締めくくべく仕上げを行っているところである。本日もご報告をするとともに、ご意見いただきたいことが多々あるので、よろしくお願いしたい。

前回の参観から今までの学校行事を紹介する。

●11月08日(月)生活科「秋を探そう」(1年)

●11月10日(水)国語説明文 研究授業3,6年

●11月11日(木)お話一座読み聞かせ(6年)

●11月12日(金)道徳公開授業(5年)

特別支援教育研修(教員向け)

●11月15日(月)音楽鑑賞会

ICT機器操作研修(Zoom)

●11月16日(火)社会体験研修(2年目教員)

●11月17,18日(水,木)

林間学校(5年)信太山青少年野外活動センター

●11月19日(金)三中校区合同研修会

●11月22,23日(月,火)

修学旅行(6年)広島方面

●11月24日(水)特別支援教育研修

●12月02日(木)リトルカメラミニコンサート

●12月06日(月)応急手当講習会(5年)

●12月6,7日(月,火)

ユニセフ募金活動

- 12月 7日(火)校内研修(体育時の安全)
- 12月 8日(水)摂津市学力定着度調査
- 12月13日(月)～17日(金)

個人懇談・校内図工展

- 12月20日(月)「国循 こども健康リーダー」養成プロジェクト(仮) ダンスでからだを楽しく元気に
- 12月24日(金)2学期 終業式
- 1月11日(火)3学期 始業式

感染者数が減少していることから、宿泊行事、実習的なこと、外部との関わりをもった学習の取組みが進んだ。

(委員)行事が再開している中で、他校を見ていると児童が喜んでいる様子が見て取れる。運動会も、修学旅行も、諦めていたことができた、となると嬉しい。今は「できて良かった」と喜んでいるが、今後はポストコロナも見据えて、児童にとって意味のある活動を行っていく必要がある。今後の方向性や目的をしっかりとって行事を進めないといけない。制限が多い中、行事を行ってみて、教職員にとっても、運動会など行事の在り方について再度考える機会になっているのではないだろうか。「できてよかった」で終わるのではなく、今後のことも考えていく必要性を感じている。

(校長)宿泊行事でいうと、“やることが減った”というよりは、感染予防の様々な対策をしなかった印象。バスを増便して密を避けたり、林間学校もカレー作りをやめたりするなど、活動の内容はまだまだコロナシフトである。一方で「できる」となった時に「慣れ」からくる色々な要望が保護者から挙がっていた。目的は何なのかを大切にすることが必要である、と考えている。

(委員)運動会も、今後このような形が定着していくのではないかなと思う。平和教育はもちろん大切であるが、修学旅行も、行き先も含めて考えてみることも大事だ。

(校長)今の6年生は、4年時に修学旅行についてアンケートを取っている。保護者からは、「広島市の平和資料館で、平和の大切さや戦争の悲惨さを学ぶことをこの時期にしてほしい」という意見が出ていた。今後どうするのか、見守っていかなければと思っている。

国循とのダンスプロジェクトについては急遽決まったが、ダンスを楽しく踊って、食事のことを考えながら、健康づくりを目的に進めているところである。2025年の大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン(Designing Future Society for Our Lives)」であり、そのうちの「健康」を、児童が主体的に考え行動するという取組みである。先日は、5年生対象にダンスを行う中で、自分の体の変化について知る活動を行った。児童は日頃、血圧というものを意識したことはほとんどない。この日はダンスの前後に血圧を測定し、その数値から自身の体の中の変化を感じてもらった。今後の予定としては、出汁(だし)を題材にして、「食」の取組みを進めたい。

(委員)国循は具体的にはこういった関わりを行うのか。

(校長)病院食(減塩食)の延長線上で「がまんする」ではなく、おいしく減塩することを目的に、国循、かるしおと

連携して学習を進める。

(委員) ダンスが好きな児童はたくさんいる。味舌小学校でもかつて「足が速くなるダンス」に取り組んだ。味生小学校では、滋賀県にゆかりのある江州音頭に関連した取り組みを行い、最終的には人権週間の取り組みの一つとして、地域における人のつながりを考える学習につないでいる。今回の千里丘小学校での取り組みは、「健康」をテーマにしていると言うが、「塩分控えめ」の取り組みは、「心筋梗塞」や「脳溢血」など「怖い怖い教育」になりがち。ストリートダンスを児童が楽しみながら、健康への習慣づくりを学べる機会につながればいいと思う。

(校長) インストラクターの方が上手に指導してくださるので、児童は楽しそうに取り組んでいた。急な呼びかけになったが、数名の保護者も参加していただき、ある保護者は「こっそり踊って練習してから子どもと踊る」と仰っていた。次回は、1月27日(木)の予定。家庭科室で実際に調理などしながら食の学習を進めていく。

(委員) やはり、外部からの講師はいい。今までは“当たり前”だったことがコロナ禍で有難さがよく分かる。

1年生は自然を体感するのが大事。季節の移り変わりを感じるには、近場でも十分にねらいが達成できる。身近な地域の色々な人材・資源はどんどん活用して進めて行けばよいと思う。

私自身も江州音頭を結構楽しんでいるが、子どもたちも楽しさを感じているはず。体を動かすダンスは本当にいい。私も千里丘小学校の児童になりたい。

(委員) 摂津市の学力定着度調査というのは、摂津市独自のもので、他市ではやっていないのか。

(校長) 他市でも取り組んでいるところがある。

(委員) 摂津市の国語の学力が伸びている、と聞いている。千里丘小学校でも国語の授業に力を入れていると聞いていたので、それに繋がっているのかな、と思う。

(校長) 摂津市の学力定着度調査は、国語と算数、生活調査の3つを行い、その傾向を見ている。

(委員) 平成15年から学力定着度調査を始めた。当初は限られた学年だけだったが、今は全学年で実施している。

平均正答率は上昇してきているが、全学校が教科研究や授業研究を進める中で、言語活動に取り組んでいることが要因として挙げられるのではないか。ちなみに、このテストは多くの自治体の実施している。

(委員) わが子が小学校に通っていた頃は、摂津市全体の結果はあまり芳しくなかった記憶がある。大事なのは点数だけではないのだろうが…。

(校長) 今年、本校ではユニセフ募金に取り組んだ。実はユニセフの取り組みを行う学校は少ない。本校でも国際理解教育は進めているのだが、ここしばらくユニセフ募金が行っていなかった。今年は児童会が中心となって様々なプレゼンを行い、学校全体で行った。

(委員) 具体的に募金が何に使われるのか、ちょっと不安になる部分もある。主催者からのお礼状や具体的に何に使われたかななどの紹介も是非してほしい。フィードバックがあることで次への意欲につながる。

(委員) ユニセフの人に最後、お話をしてもらいたいと思う。初めは、ユニセフの取り組みについて紹介するなど盛り上がりがちだが、募金がゴールになってしまっている学校が多い。担当者から千里丘小学校

に向けて「ありがとう」というメッセージをもらったり、自分たちで集めた寄付金で何人の人が助かるかなど話していただいたりするのも一案。“募金”＝「お金出すのが当たり前」という強引なものにならないように、子どももそれぞれの立ち位置で考えられるようになってくれたら嬉しい。子どもたちが「自分に無理なくできること」で良い取り組みとして欲しい。

(校長)確かに、現段階では募金活動で終わっている部分が多い。今後の返し方を考えていく。

2. 学校教育自己診断アンケートについて

(校長)柱としては、学校経営計画で掲げている3つの柱。

今回は電子媒体(Googleフォーム)でアンケートを実施したところ、回収率が7割程度になってしまったので調査実施日を伸ばし、安全安心メールで再度通知を行った。さらに「紙がいい」という保護者のためにアンケート用紙も配付し、最終的に98.9%の回収となった。他校の様子を見ても、アンケートを電子媒体にすると回収率が下がる傾向にあるようだ。今後、実施形式については慎重に検討していく必要があると考えている。

概要では、学校経営方針の柱に沿って、取り組みの様子が分かるような質問項目をピックアップしている。ご意見いただきたいのは、学校経営方針のテーマに正対した質問項目になっているのかなど。また、紙面の在り方(グラフの見やすさや凡例の表示方法、保護者の方に伝わりやすいものになっているかなど)についてもご意見があれば伺いたい。

(委員)上の概要説明と下のグラフがリンクしている形で掲載されている、という認識で合っているのだろうか。数字が合っていないところがある。また、保護者と児童とで回答の仕方が違うようだが。

(校長)保護者は“分からない”も含めて5段階。児童は“はい”か“いいえ”の2段階で答えている。数字は改めてチェックする。

(委員)回収率の高さに驚く。

(委員)8割乗ったらすごいところだが、ほとんど回収しているので、すごいと思う。

(委員)どう捉えているのか気になる。例えば「学校は楽しい」の87.5%は多いのか?10人に一人は「楽しくない」と思っている状況は、私が担任だったらショックだろう。どう捉えるか、ということについてはもう一度見直しも進めていく必要があるのではないだろうか。

また、教職員の回答が否定的なものが多いのが気になる。これは批判的に見ているのか、自分たちの反省として見ているのか、どう捉えているのだろうか。

(校長)赴任一年目の令和元年度のアンケートでは、教員は“学校組織”として捉えておらず、“担当が行っているか”“自分はどうなのか”といったピンポイントで回答していた。評価の基準がはっきりしていないのだが、教員は「できた」というより「もっとできることはある」「まだここはできる」と感じているのではないだろうか。

(委員)自らの振り返りとして、もっとやれると考えているのであれば、安心。

(委員)「いじめ」の項目にしても「学校は楽しい」の項目にしても、これくらいの割合の子どもが困っているのかな、という感覚を教員は持って前に立つようにしてほしい。

(委員)分析って大事。「先生に相談しない」という項目についても「信頼できる先生がいない」のか、「カウンセラーの存在を知らない」のかで違ってくる。聞き方も大事。

(委員)「相談する先生がいない」とした12.9%の中には、相談したいことがあるのにできていない児童と、相談したいことがなくて“いいえ”と答えている児童もいると思う。前者が多く隠れているとすると、怖い。

(校長)いじめも含む問題行動は、全市的に件数が上がってきている。本校でいうと、少し前までは高学年中心にトラブルが起こることが多かったのだが、今は問題行動が低年齢化している。コミュニケーションがうまくいかないことが課題。1年生でも、“嫌”という気持ちを伝えられずに周りの児童を押す、などの対応になってしまう児童がいる。ますます見守りが必要な大変な状況になる。

(委員)件数が増えているのは逆にいいことだと思う。隠さず、認めて報告・対応している、ということだろう。

(校長)軽微なものでも挙げる組織づくり、取組みを進めている。今後も続けたい。

(委員)保護者や地域との連携が大事と改めて感じる。「いじめなど相談できる人はいますか」という項目は、学校外の人物も対象になっている。先生に限ると、相談できる児童は75%で4人に1人はいないということになる。全部先生が拾い切れないかもしれないが、地域や家族に相談できるのならそれでもいいのではないだろうか。

(校長)現状、本校のいじめは家族・保護者の訴えからの認知が多い。アンケートもとっているが、それよりも家で家族に相談していじめが判明するケースが多い。

(委員)今年から取り組んでいる千小っ子運動タイムの数値が低い。改善の余地がある、ということか。

(校長)4、5年生は「楽しい」と答えているが、6年生の肯定的回答が低い。原因として考えられるのは、低学年の方が体も身軽で楽しんで参加できる、ということ。また、今年度の6年生は肥満率が高く、その関連も見ていく必要があるかと考えている。

(委員)休み時間に自由にできない、というのは高学年になればなるほど不自由に感じるのかも。自由度と体力づくりの取組みとの兼ね合いをどうするか、また、どうすれば主体的な活動になるか、考えていく必要があるのだろう。ただ、見学した時は高学年の児童が生き生きとサポートしているように見えた。

(委員)来年のアンケートで今の5年生が6年生になった時にどうなのか、見て行ったら分かる。成長に伴う思春期の流れなのかもしれないし、そうでないのかもしれない。

(委員)目的をはっきりと意識させられているかどうかも大切。体力づくりは習慣化がポイント。運動タイムがたまにしかない、ということを考えると、児童の中に「体力づくり」について疑心暗鬼になっている人もいるのかも。目的をおざなりにして“やらなければならない”としてしまうと、休み時間が無くなる、という否定的な意識が前に出てしまう。

(委員)メディアについてのルール作りの項目だが、教職員の「リテラシー教育」が関わってくるのでは。また、高学

年になればなるほど、SNSに関するリテラシー教育を問うていった方がいいのではないだろうか。ニュースをSNSで知る人も多くなっている。SNSで流れているデマを信じてしまう等の問題もある。SNSとどう付き合うか、という視点にシフトしていく必要があるのではないか。「ゲームの時間」を問うよりも高学年にはこちらの方が大切なのでは。

(校長) 別のアンケートで見ると、本校児童のスマホの所持率は他校に比べて低い。しかし、ゲーム機の保有率は高い。また、家族のルールで第一に掲げられているのは、「時間の制限」であって、「課金」などについてはルールがない家庭が多い。学校がどこまで関わるのかが難しく、頭を悩ませているところ。ただ、4年生、5年生はゲーム上でのトラブルが多い。

(委員) 他校でもゲーム上でのいじめなどが増えている。また、内容に問題のあるゲームも増えている。目に見えるところだけ制限しがちだが、大事なのはそこではないのかも。

(委員) ゲームにのめり込んでしまった中学生が祖母にお金をせびるケースも聞いている。親は厳しく禁止していても、祖父母は孫につい甘くなってしまうこともある。

(校長) 6年生はゲーム上のトラブルよりも動画の視聴時間が長いことが千里丘小での課題。しかし、人の写真や動画をインターネットに上げたことのある児童はゼロで、一定の理解はあるようにも見える。何を課題として家庭と連携していくのかが難しい。

(委員) スマホ・携帯の出始めは、「習い事のために持たせる」というケースが多かったが、今は習い事がなくても普通に持たせるのが一般的になってきた。難しいところだ。

(校長) 中学校では「携帯を持っていない時間を作る」ことが、生徒がホッとする安心の材料になっているとのこと。所持している間は、メッセージにすぐに返信しなければならないので安心できない、というのが現状らしい。

(委員) 一つ間違えば事件につながる。どれぐらいのことがどんな危険につながっているのか、親が分かっていると歯止めになりにくい。一つでも起こってしまえば、取り返しのつかないことになる。親の意識が低いのだとすれば、それをどう変えていくかが大事だと思う。中学校だと講習会を開催するなどもある。

(校長) 大人よりも子どもの方が操作を覚えるのは早い。怖いもの知らずで、どんどん進んでしまう。今年度は、PTA主催の学年親睦会を今の課題に応じた内容の取組みで開催していただいた。その中で、4、5年生はJ:COMなど外部から講師を招いて親子で考える取組みを行った。

(委員) 児童には、携帯は「怖いものだ」という教育と、「便利なものとうまく付き合う」という教育を同時に進めていく必要がある。禁止ばかりするのも難しい。メリットとデメリットを教えないといけない。以前はPTAが積極的に取組みを進めておられたこともあった。

(委員) あの頃は「子どもに持たせない」ことを進めていたが、今この時代は無理。「持たない」子は遅れてしまう。いかに上手に使うのか、YouTube一つにしても娯楽で見るのか、学ぶために見るのか。使い方を教えていけないといけないのかな、と最近思う。

(委員) 昔は、テレビに子守をさせていることで批判が起きていたが、今はスマホやタブレットが子守をしている時

代だ。アンケート項目も本当に時代に合っているのか、見直す必要がある気がする。

(委員) 子どもに限らず、大人もスマホに依存している、と感じている。今までは仕事中に携帯を持ち込むということではなかったのだが、音楽を流したり、保育活動を検索したりなど、仕事の中でも便利に使っている。今はかなり高齢の方でも分からないことを調べたり、LINEを使いこなしたりするようなご時世だ。子どもだけの問題ではなく、大人も子どもも、いかにうまく付き合うかということを考えていく時代かな、と思う。

(委員) 先日も校区福祉委員会参加のスマホ教室が行われ、学習してきたところだ。

(委員) 私も言葉を忘れた時、思わずスマホで調べる。スマホとうまく共存していく使い方とダメなことを教えていくことが大切だ。結局は使い方。大変なことになる前に、どの場で誰からどう伝えるか、カリキュラムの中でどう取り組んでいくかを考えていかないといけない。子どもたちは大人が把握していない世界に浸っている。保護者も巻き込んだアクションを起こしていかないといけないと思う。一方で、人権意識など育てることも大事だ。

(委員) 教員も使い方とも考えていかないといけないのでは。参考にすることは良いが、自分の言葉で自分の考えを書くことが大事だ。リテラシーという事で言えば、大人が変わっていかないといけない。

3. 全国学力・学習状況調査について

(校長) 今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で例年より1カ月遅れの実施となった。資料は領域別のグラフと、正答数の分布図を示している。どの児童も最後の問題までしっかり取り組んでおり、国語も算数も、無答率は低い結果となっている。摂津市、国と比較しても平均正答率が上回っている。全国の平均を1としたとき、国語は1.07、算数の1.1となっている。16問中13問以上正解している児童が大半である。

資料の裏面は質問紙調査のグラフ。良かった点としては①自分には良いところがある②読書③ICTの利用の3点。②の読書については昨年度までは課題であった。今年度より取り組んでいる毎朝の読書タイムが改善に結びついているのではないかなと思う。③については、一人一台の端末が配付され、活用は積極的に行っている。今後は効果的な学びに活用できているかについても検証していく必要があると思っている。

改善が見込まれる項目としては、①将来の夢をもっている②難しいことにも挑戦する③新型コロナウイルス感染拡大に伴う休業中の規則正しい生活、の3点。③については、休業中遅い時間まで起きず、乱れた生活をしていた児童が多かったことが、各担任からも報告されている。②については、失敗を恐れて答えを言わない、ノートに書かない様子は普段の授業でもよく見かけることもあり、課題である。

(委員) 平均正答率だけ見たら、すごく良い。しかし、あくまでも平均正答率である。問題はできていない児童もいることで、その児童をどうしていくかが重要だ。夢を持つことに課題を見出していたが、やはりみんなが夢を持てるようにしてやる必要がある。

(委員) 全体的にグラフを見ると、二極化も見えない。いいと思う。

(委員) 分布図自体はかなり右に寄っている。

(委員) 中学受験する子が平均正答率を押し上げているのかというと、そうでもなさそうで良かった。

4. 次回の予定

次回日程は、1月28日(金) 18:30～ に開催。